



機械で潰したアルミ缶。アルミ缶を潰す作業は進行具合が目に見えやすく作業しやすい。



市内の各地域から集められた空き缶をアルミ、スチール、ビンなどに仕分ける。混在していると仕分けが大変。

アルミ缶潰し



さつき作業所

大池町10番地1

社会福祉法人さつき会が運営する通所施設。障がいのある人が社会で働き、社会参加できることをめざす。重度の知的障がいのある人の生活介護と生産活動の場の提供を行う。



40~60グラムに分けて袋につめ、市内業者へ納品。1週間で600袋程度作る。



緩衝材をつくるための紙を裁断する様子。ウォーキングを終えてからのひと仕事。

緩衝材づくり



障がいのある人も いきいきと!!

障がいがあってもなくても、私たち一人ひとり、尊重されるべきかけがえのない存在です。お互いに支え合い、尊重し合える社会をみんなで築いていきましょう。

さつき作業所の1日

- ①午前9時40分 出勤
- ②午前9時50分 ラジオ体操と朝礼
- ③午前10時 作業開始
- ④正午 昼食
- ⑤午後1時 作業開始
- ⑥午後2時 休憩
- ⑦午後3時30分 作業終了
- ⑧午後3時45分 退勤



小麦粉を量る作業の様子。



うどん生地をまとめて固める。結構力がいる。

自慢の

さつちゃんうどん

湖南省のふるさと納税の返礼品にもなっている。



ワーク ステーション虹

大池町10番地1

社会福祉法人さわらび福祉会が運営する通所施設。屋内外のメンテナンス作業の請負や古紙回収、虹弁当の販売などを行う。地域の精神障がいのある人たちの社会参加をめざす。



虹弁当10周年の感謝企画「ちらし&赤飯 彩弁当」

ワークステーション虹の「虹弁当」

営業、買い出しから仕込み、調理、配達、会計まで通所者が行う。毎月メニューを一新。ボリューム満点、ワークステーション虹自慢のお弁当。

虹弁当を作る和田さん



「知らない」から「知っている」へ

今回、取材したワークステーション虹とさつき作業所は、就労継続支援事業B型を行う障がい者通所施設で、一般企業などでの就労が困難な人に、働く場を提供し、就労に必要な知識と能力の向上のために必要な訓練を行っています。

ワークステーション虹で「虹弁当」を作る和田さんの表情は真剣そのもの。ピリッと緊張した空気の中、作業を行います。作り終えたら、甲賀・湖南省内の企業などに配達します。

さつき作業所では、アルミ缶潰しや緩衝材作りなどを一人ひとりのペースで行っています。目の前の仕事をもくもくとこなす人もいれば、ほかの事をしながら作業する人もいます。一日のスケジュールは文字で表し、見えるようにして作業しやすくしています。取材中、カメラが好きな人やおしゃべりが好きな人など、個性豊かな人たちと出会うことができました。今回は2つの施設を紹介しましたが、市内には他にもたくさん障がい福祉施設があり、個性を生かした様々な活動をしています。

先人から受け継がれる福祉先進地「湖南省」

障がいがある人といっても、障がいの種類はさまざままで、障がいのある人の数だけ人格や個性があります。障がいがあると自分ひとりだけでは思うように外出できなかつたり、気持ちをうまく伝えられず、手助けが必要になったり、不安が高まって自分の行動をうまく調整できないことがあります。

しかし、それはその人の人格や個性のほんの一部。障がいがなくとも、誰かの手助けが必要な場面はたくさんあります。お互いのほんの少しの気遣いや、手助けによって社会は成り立っているのです。

しかし、現実社会に目を向けると、車いすではいけない場所があつたり、障がい

いがあることを理由に就職ができなかつたり、社会の側に物理的、心理的なたぐさんの障がいがあることがわかります。もし、障がいのある人がこのまちで暮らさずらいと感じているとしたら、障がいについて何も知らず、配慮に気付けない私たち一人ひとりの責任です。

このひとたちが、じつは私たちと少しもかわらない存在であつて、その生命の尊厳と自由な自己実現を願つており、うまれてきた生き甲斐を求めていることを友愛的に共感して、それが本当に社会の常識となることへの道行が「福祉」の内容となるのである。

(糸賀一雄 著 「福祉の思想」)

湖南省に立地する近江学園を創設した糸賀一雄

藤谷一夫さん インタビュー

湖南省聴覚障害者協会会長
滋賀県ろうあ協会理事

こんな想い・こんな声

Q 湖南省聴覚障害者協会について教えてください。

A 現在、聞こえる人を含めて20代から70代の約30人の会員がいます。様々な情報を得るために、毎月の例会や日曜日の学習会などを開き、会員向けに発信するように心がけています。

市内には聴覚障がいによる身体障害者手帳を持っている人が約170人いますが、一緒に活動できる仲間をもっと増やしていきたいです。

Q 現在、職場ではどのようにコミュニケーションを取っていますか。

A 私は、ろう話学校の教師として35年勤め、退職後は現在の会社でパート勤務をしています。ろうあ者に対する理解はバラバラで、周りのコミュニケーションを取るのには本当に大変でした。今では随分慣れて、筆談



や手話ができる人を介して楽しくやっています。

Q 聴覚に障がいのある人同士では、どのようにコミュニケーションを取るのですか。

A 主に手話です。しかし、話し方にはそれぞれ癖があります。手話ができない人には少しずつ覚えてもらっています。家族の中でもコミュニケーションが取りづらくはありません。

Q 聞こえない、聞こえづらいことで、今まで苦労したことや困ったエピソードはありますか。

A ろう話学校で勤務していた時、手話での授業を認められない時期がありました。教育の保障が不十分だったと思います。補聴器をつければ聞こえる、大きな声で話せば聞こえると思っていた人もいました。「聞こえない

は、数多くの福祉の実践から「この子らを世の光に」という言葉を残しました。「この子らに世の光を」ではなく「この子らを世の光に」です。この言葉にはどんな意味があるのでしょか。

彼が残した福祉の思想は、この地域に色褪せることなく根付いています。湖南省は福祉の先進地として知られ、全国に先駆けて創り上げた発達支援システムなどがあります。もちろん、一朝一夕でできたわけではありません。福祉に携わる多くの人、地域の人、そして当事者たちの努力の積み重ねがあるので

糸賀一雄をはじめ先人たちがめざした障がい者自身が輝く社会、人間と人間が理解と愛情で結ばれるような社会の実現に向け、これからは私たち一人ひとりの理解や行動が求められています。

い」ことを伝えることも難しいです。最近では災害で電車やバスがよく止まりますが、アナウンスでは全く内容がわかりません。来ない電車を何時間も待ちぼうけ：：なんてこともよくあります。

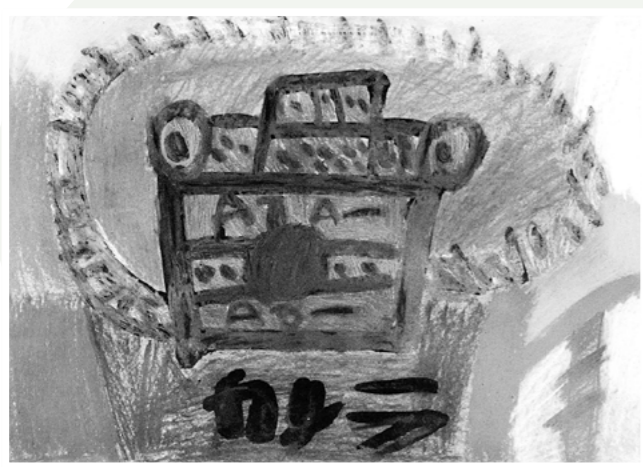
その点、湖南省のタウンメールは分かりやすいです。自治会や行政の行事でも、手話通訳を積極的に入れてほしいですね。

Q 生活の中で不安に感じることがあれば教えてください。

A 災害時が一番心配です。メモでもなんでもいいので、みんなと同じように情報を伝えてほしいです。聴覚障がいには外見ではわかりにくいので、自分から人に尋ねるといふことも苦手な難しい人もいます。

高齢化が進み、介護が必要になった時に手話のできるヘルパーさんがいるのかも気になります。どのような介護してほしい内容を伝えればいいのか、大きな課題だと思います。手話を学ぶ人も増えてきましたが、障がいへの理解がより深まることを願っています。

アール・ブリュット(アウトサイダー・アート)



アール・ブリュットとは、加工されていない生の(き)の芸術のことで、英語ではアウトサイダー・アートと呼ばれます。伝統や教育などに左右されず自発的で、作者自身の衝動のままに表現された芸術をさします。

畑名祐孝
HATANA Hirotaka
「カメラ」



エルディ

三雲1181番地1

部品組立
清掃・剪定・草刈り作業
訪問販売
まちの便利屋さん
(自転車パンク修理、簡単な日曜大工など)



いしべ共働作業所

東寺一丁目2番6号

紙袋の製造
家電電器部品の組立
企業内の清掃・梱包作業
イベントなどへの出店



しあわせ作業所

石部西一丁目10番14号

企業からの下請作業
高齢者介護施設の清掃
市内企業での緑化作業
企業構内作業



バンバン

西峰町1番地1

菓子パンの製造
和紙のカレンダー・名刺・一筆せんの制作
軽作業



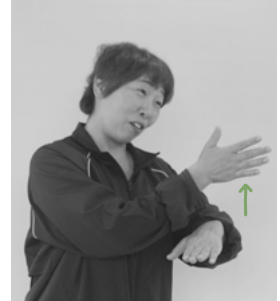
市内の障がい福祉サービス事業所の一部を紹介します

各事業所では、企業などの発注を受け、製品をつくったり、お菓子やカレンダーなどの自社製品をつくって販売しています。

手話で話そう! 明日から使える手話を紹介します

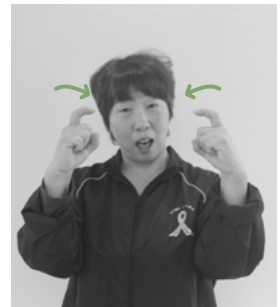
その1 ありがとう

左手の甲に
縦にした右手をのせ、
前方上にあげる。



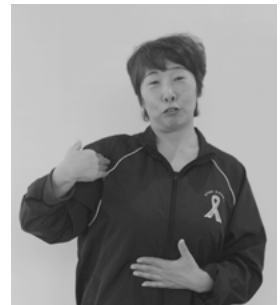
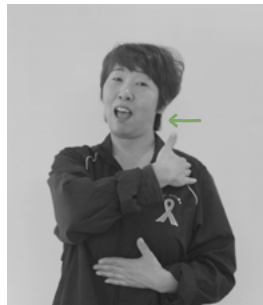
その2 こんにちは

向かい合わせて
たてた両手の人差し指を
内側へ同時に曲げる。



その3 だいじょうぶ

曲げた右手の指先を
左胸にあててから
右胸にあてる



社会や心の中にある障がいをみんなでなくしましょう

12月3日～9日は障害者週間です。湖南省では、平成18年に「障がいのある人が地域でいきいきと生活できるための自立支援に関する湖南省条例」を制定し、行政や関係者だけでなく、市民・地域が一体となって取り組んでいます。この特集を読んで、遠い存在に感じていた障がいのある人との暮らしを、少しでも身近に感じてもらえたら嬉しく思います。この紙面を飾ってくださった皆さんの笑顔が明日への道しるべです。お互いに手を取り合い、共生への道を歩んでいきましょう。